

# 同窓会助成事業報告

## ロボコン全国大会

＝栄えある全国ベスト4＝

機械工学科教官 西山 等

昨年度の同窓会誌に私はつぎの文章を書いた。「今年もロボコンの季節がやってきた。この同窓会誌が卒業生の皆さんに届く頃には近畿地区大会そして全国大会も終了し、わが舞鶴高専のロボットの活躍の様子がテレビ放映されることであろう。この放映では出来るかぎり長時間本校からの出場ロボットが公共の電波を支配してくれることを祈りつつ…」このことが現実になったのである。

ロボコン'95高専部門は「ドリームタワー」の名のもとに20個のバレーボールを高さ3mまでの3段階のゴールに入れて合計得点を競うゲームであった。近畿地区大会は7高専から各校2台のロボットが出場して神戸市立高専で行われた。国技館で行われる全国大会への出場権を得るのは優勝チームおよび審査員2チームの計3チームだけである。

本校からは長いアームで着実にゴールを決める「Vスペック2」と水酸化ナトリウム水溶液の電気分解を利用した水素爆発型投げ込みロボットの「ビッグバン」が出場した。「Vスペック2」のメンバーは3年目で最終学年としての最後の挑戦であり全国大会出場を絶対的な目標とした。「Vスペック2」は関係者から優勝候補と目されたが、その初戦の相手はもう一方の横綱とされる大阪府立高専の「シングルブロー」であり、事実上の決勝戦となった。お互いに初戦のためか緊張による操作ミスが見受けられたが操縦者（田村寿裕君：平成8年3月機械工学科卒業

生）の好判断もあり、結果的に競技時間終了時点で同点、1分間の延長で相手の反則で減点となり辛くも勝利を収めた。以後、2回戦「和歌山高専：つかむ君」、準決勝「神戸高専：ブリュンヒルデ」を相手に順当に勝ち進み、決勝戦に挑んだのである。決勝の相手は明石高専の「きりん」であったが相手ロボットの動作不良も手伝ってか、比較的楽に勝利を収め全国大会出場権を得た。舞鶴高専としては3年ぶり2回目の近畿地区優勝である。当日は舞鶴で華やかに高専祭が開かれており、校内放送でこのニュースが伝わるやいなや学校全体が大いに盛り上がったと聞いている。全国大会出場のあと2台のロボットは審査員推薦により「明石高専：きりん」と「神戸高専：ブリュンヒルデ」となった。なお、本校のもう一台のロボット「ビッグバン」は、大会前日のテストランではその爆音とボールの飛距離に周囲の人々を驚嘆させたが、本番では不発に終わり神戸高専の「サーブ君」に初戦で負けた。

全国大会までの2週間のあいだ「Vスペック2」チームはロボットの調整のほか、報道関係者との応対、舞鶴市長への挨拶等かなり慌ただしい日程に追われた。また、その間後援会の協力も得て、全国大会への応援バスの運行が決まった。前回の全国大会出場の際にはメンバーのクラスメイト達の0泊3日の応援旅行（学生団体割引切符による普通列車の乗り継ぎ旅行）とは格段の環境改善であった。

全国大会へは全国8ブロックの代表24チームが出場した。「Vスペック2」は初戦で「函館高専：ボルテックスストライカー」、2回戦で「鈴鹿高専：忍POムササビン」を相手に勝ちを収めた。3回戦は近畿大会の決勝の再現で「明石高専：きりん」と対戦したがこれも退けた。さて、つぎは問題の準決勝である。対戦相手は米子高専の「超恐竜Ⅱ」である。このロボットは、間伐材で作られた恐竜型の木製ロボット機動性では「Vスペック2」の方が優る。私自身決勝進出を確実視していたが、競技開始直後操作ミスが出て「超恐竜Ⅱ」優勢に試合が進み、あと一步のところまで惜敗した。しかしながら、この時



点で舞鶴高専の歴史に残るロボコン全国大会ベスト4という栄誉を獲得したのである。

さて、今年のロボコンはテクノカウボーイという競技で行われる。基本的には輪投げの陣取りゲームである。本校からは「～輪舞～」と「トレジャーハン

ター」の2台のロボットが出場する。今年の近畿地区大会は、地元の舞鶴文化公園体育館で開催される。より長時間本校からの出場ロボットが公共の電波を支配してくれることを祈りつつペンを置く。

## 速報

# ロボコン2年連続全国大会出場決定!!

ロボコン指導教官 機械工学科 西山 等

工夫をこらした手作りロボットで課題を競うロボコン'96近畿地区大会が10月20日(日)が地元舞鶴市上安久の舞鶴文化公園体育館で開催されました。本年度は、テクノカウボーイという輪投げと三目並べを組み合わせた陣取り合戦で、トーナメント方式で3分間の制限時間内にパイロンと呼ばれる円すい形の標的に輪を投げ入れる競技です。昨年までロボットが扱う対象物はバレーボールやラグビーボールのようないわゆる規格品でしたが、今年は規格品でなく輪は各チームが自分たちで作るため、その素材や大きさ・形の選択が勝敗の大きなカギを握る、ゲームとしてよりおもしろさを増したものとなりました。

本校からは電子制御研究会の「～輪舞～」と技術科学研究会の「トレジャーハンター」の2台のロボットが出場しました。「～輪舞～」は、ローラーの回転で輪を飛ばすオーソドックスなタイプ、「トレジャーハンター」は、3枚の羽根を付けた輪を竹とんぼの要領で飛ばすテクニシャンタイプです。

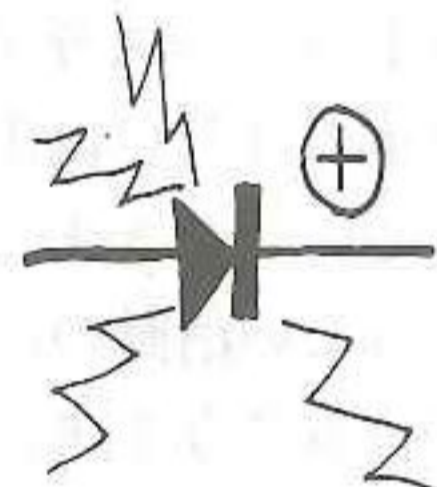
「～輪舞～」は2回戦からの登場で1回戦で奈良

高専の「火羽暴威」に勝利した明石高専の「HUNTER」と対戦しましたが「HUNTER」の機敏な動きにより輪の打ち出しを披露することができず、残念ながら初戦で敗退しました。なお、「HUNTER」は近畿地区優勝のすぐれものでした。一方、「トレジャーハンター」は、1回戦で同じく明石高専の「BOLA」と対戦し、善戦しながらも敗退しましたが興味ある輪の打ち出しに会場が大いに沸きました。

幸いにも「トレジャーハンター」は技術賞を受賞し、さらには審査員推薦により栄えある全国大会への出場権を獲得しました。舞鶴高専としてはロボコン地区大会実施以降通算3回目、2年連続の全国大会出場です。

全国大会の様については12月23日(月曜日)19時30分よりNHK総合テレビで放送予定です。

どうぞ御覧下さい。



## プログラミングコンテストへの参加を通じて

電気工学科教官 池野 英利



全国高等専門学校プログラミングコンテストも今年で7回目となり、高専におけるイベントの一つとして定着してきたように思われます。NHKを通じて全国に放映されるロボットコンテストほどの知名度は無いものの、コンピュータ、およびプログラミングに関心のある学生にとっては、その実力を発揮する絶好の機会となっており、毎年全国大会に出場していることから、本校は最もアクティブな高専の一つとして高い評価を得ています。

さて、7年前のプログラミングコンテストの発足のころから考えると、コンピュータをめぐる環境は